

一線の研究者は 大学においても日夜をついで研究し 優れた成果の発表の「時間」を競っていることは世界共通のことである。 研究生活全般について 各個人の才能をじゅうぶんのばせるように 雑用はほとんどなく かなり能率よく行なわれているのは 非常にうらやましい限りである。 その背後には事務運営 秘書という名の事務員の働きなど 見のがせない点がある。 何処の研

究所 大学へ行っても 日本人の正研究員 留学生のいない所はめづらしい位である。 また日本人の勤勉さ 器用さで 若い第一線の研究者は本当に重宝がられている。 「頭脳輸出」は 水の低きにつくがごとく自然の理といえよう。 研究の世界にあつては 人種の差はなくその研究環境のすぐれた所に 頭脳は集るといっても決して過言ではないようである。(筆者は鉱床部核原料資源課)



雲仙天草国立公園

地学と 切手

堀内 恵彦

長崎県の東南 有明海に突出する島原半島の 雲仙岳を中心とする複雑な集成火山地域が 国立公園に指定されたのは 霧島および瀬戸内海と共に最も早く 昭和9年3月16日でしたが その後昭和31年7月20日に半島の南に 小地塊として海中に散在する天草群島の一部が地域に編入され 長崎・熊本・鹿児島 の三県にまたがる 256.002km² が公園地域となりました。 この地域の特色は 指定理由に 四季の楽園ということと共に キリシタンの史蹟 遺蹟 伝説等が多いということが挙げられていることは 興味深いことです。 この地域は前述した通り 雲仙岳周辺地区と天草群島地区とにわけられます。

雲仙地区……島原半島のほぼ中央の雲仙岳を中心とした一帯で 古くからの開港場長崎に近いので 外人が多く訪れ とくに戦前は上海・香港等からも避暑客があり 外人の間に雲仙は有名であったようです。 山は1,360mの普賢岳を最高峰に 国見岳 妙見岳を中心に 北に島甲山 吾妻山 東に眉山 七面山 西に綱笠山 高岳 南に野岳 高岩山等の火山群が形成する高原台地で その間に田代原 宝原 論所原等の高原があり 春にはツツジ 秋には紅葉が一帯にひろがり 山上からの有明海や千々石(ちぢわ)湾 天草灘をへだてて 天草群島や阿蘇・霧島の山並みの展望は雲仙の特色です。 雲仙温泉は避暑地として有名で 古湯・新湯・小地獄などの源泉が豊富に点在し またゴルフ場・テニスコート・プール等もあり 春のツツジ 秋の紅葉 冬の霧氷は有名です。

また東の 島原市 は 背後に眉山を控えた風光明媚な街で キリシタン反乱で有名な島原の乱の中心地で 名勝・旧跡が多くあり 九十九島と白土湖は寛政4年の眉山の爆発によってできたものです。 森岳城跡は松倉豊後守重政が築いた名城でし

たが 今は石垣と濠が残るだけです。 また南有馬には天草四郎が立てこもつた 潮の干満を利用して築いた原城跡があり 丘の上には土塁・濠跡がありますが キリシタン弾圧の地として有名です。

天草地区……天草灘と不知火海の間の上島・下島 大矢野島 御所浦島 樋島など熊本県の島に 獅子島 長島などの鹿児島県所属の島が加わった群島で 特長は 内海多島海風景 沈降海岸 砂州と陸繋島 海蝕断崖などの海岸風景です。 島上には 陸海の展望地としてすぐれたところが散在しています。 暖地性植物が多く分布しとくに下須島は暖地性植物の宝庫です。 下島の東岸 本渡市は天草文化発祥の地といわれ 天草の中心地で 天草の乱の遺跡・天草氏の居城 木戸城跡・切支丹学校跡の丸尾丘などがあります。 この天草は五島列島とともにカクレキリシタンの地として有名で 西岸 崎津港は明治6年キリスト教解禁後 いちはやく神父が渡来し 天主堂を建てマリアの鐘を鳴らした地で そちこちに十字架の墓標や墓石が見られ 異国情緒の濃い景観です。 下島西岸には 天草唯一の下田温泉があり 近くに海蝕により生じた海蝕崖妙見浦があります。

また西北部の苓北町は 海中に突出した半島状の風光明媚な地で 頼山陽の「天草灘」はこの海岸の暮景をよんだもので 湾頭に記念碑があります。 このほかに竜仙島の奇景 天草松島の景観 竜が岳・六郎次山の展望が有名です。

以上この地区の探勝には 船とバスを大いに利用することが必要で 天草は最低2泊が必要です。

切手は 昭和28年11月20日に5円(雲仙ゴルフ場)、10円(雲仙岳の遠望)の2種、昭和38年2月15日に5円(普賢岳の霧氷) 10円(千歳山から天草松島を経て雲仙を望む)の2種が発行されました。

(筆者は元正員 現科学技術情報センター)

